

第三回埼玉スタジアム2002公園管理運営指針策定委員会
委員会における主な意見

- ・ 指定管理者に創意工夫を期待する上では、県がどのように関与するかも指針に書かれるべきである。
- ・ 施設利用者のニーズを踏まえて管理運営できるような柔軟性のある記載があるとよい箇所もある。
- ・ 指針作成にあたっては先進事例を多く調査した。それらの事例を参考に、当公園も先進的な企画に積極的に取り組んでいくという姿勢が指針の中で示されるべきである。
- ・ これまでの管理運営とは異なる姿勢で、管理運営していくことを、より強く標榜すべきである。
- ・ サッカーにとどまらず、まちづくりやコミュニティといった視点が重要である。
- ・ 「こだま」や「歓声」といった表現は、サッカーだけでなく様々な活動を連想できる。単語で区切るのではなく、例えば「熱いこだまが人を呼ぶ、まちをつくる」のように1文でつながるようにした方がよい。
- ・ これまでに培ってきたサッカースタジアムとしての知名度とかけ離れた方向性となることは避けるべきである。「熱気」や「歓声」など埼玉とかけあわせるとサッカーを連想させる表現がよい。伝統と革新の両面があらわれる表現がよいのではないか。
- ・ 建設の基本理念も忘れるべきではない。一方、利用者の声に耳を傾けて、常にアップデートしていく公園づくりという視点も重要である。
- ・ 地域の人だけでなく、地域外から訪れる人も意識する必要がある、その人たちがまた訪れたいようなイメージを思い描きながら将来像をつくっていく必要がある。
- ・ 基本目標では、当公園が必要なものを「機能」と表現しているが、「施設、スペース、イベント等」と明確にした方が、指針を受けて管理する側はイメージしやすい。
- ・ 日常性と非日常性、サッカーとサッカー以外など、掲げる方向性を整理しながら、示すべき内容を検討する必要がある。
- ・ 美園地区に位置する立地特性を生かした本公園ならではの独自性ある企画の開催についてもう少し具体的に例示した方がよい。
- ・ 「文化」という表現だけでは曖昧なので、どのような文化を目指していくのかは明確にするべきである。
- ・ ユーザーのニーズを捉えた上で、指定管理者ができることを例示することが、指針の役割として重要である。
- ・ 埼玉のサッカーの歴史は、埼玉スタジアム2002が建設されてからの約20年よ

- りもっと長い(111年)ということ、指定管理者にも理解してもらった方がよい。
- ・ 当公園でコンサートを実施するためには、芝生の環境、搬出・搬入の問題、騒音、主催者の経費等へ対応する必要がある。現環境でコンサートが実施可能なように読み取れる表現は避けるべきである。
 - ・ 今後幅広く集客を図るのであれば、花火大会や食フェス等のイベントは実現性が高い。実現できるものを少しずつ増やしていくことで、多様なレクリエーション利用ニーズへ対応することができていく方向性でいいのではないか。
 - ・ 「大規模イベント」という表現では、公園を変えていく姿勢が伝わらない。地域の人が毎年楽しみにするような、地域のためのイベントを行っていくことを、指針に明記することが大切である。